２０１５年被爆二世健康実態調査
中間報告

被爆アオギリ二世
（日本郵政グループ広島ビル）

はじめに	２
０．調査期間と方法	３
１．回答者	３
２．父親の被爆について	３
３．母親の被爆について	４
４．親から被爆状況についてどのように聞いているか？	５
５．親が話の中で強調していた言葉や自分が特に記憶している原爆のシーン	６
６．親の被爆者手帳を見たことがあるか？	９
７．あたなの健康状況について	９
８．兄弟姉妹の出産状況について(略)	１１
９．あなたの幼い頃の健康状態について特徴的だったこと	１１
１０．今後の被爆二世運動についての要望	１３
アンケート用紙	１６

２０１６年3月1日

京都「被爆２世・３世の会」

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

はじめに

■広島、長崎の被爆者を親に持つ被爆二世の健康問題について、特に放射線被ばくの世代を超えた影響については、これまでにも様々な調査研究結果が発表されたり、論じられたりしてきました。しかし、私たちは今現在も確信を持てる内容で結論を得ているわけではありません。むしろ調査研究のあり方に疑問を持たざるを得ないことが多いのが実情です。被爆二世も年を重ねるにつれ健康への不安を大きくしています。また、２０１１年の福島第一原発事故は多数の被災者を生み出し、人々の今と、世代を超えた将来への健康不安を大きくしています。これに応えるために、誰からも押しつけられることなく、私たち自身の体験に立ち返って、自らの手で真実に迫っていきたい。そういう思いから２０１５年夏、京都で初めての『被爆二世健康実態調査』に取り組みました。

被爆二世がどこに存在しているのかも定かでない困難な状況の中で１０６人のみなさんから回答を得ることができました。ご協力いただいたみなさんに心から感謝申し上げます。

アンケート調査の結果をここにお知らせいたします。是非お読みいただいて被爆二世の実態の一部をご理解いただきたいと思います。

■今回の調査は真実に迫っていくための第一歩、最初のステップであると考えています。この報告の上に、さらに多くの被爆二世のみなさんが自らの幼い頃のこと、自身の体験・経験をあらためて思い起こし、重ね合わせてみていただきたいと願います。そして、より重層的な体験集約とデータの蓄積がはかられ、次のステップに進んでいくことが求められます。京都「被爆２世・３世の会」はそのためのとりくみを今後も継続していきます。本報告をお読みいだだいた皆様からも是非ご協力をお願いいたします。

■今回の調査はできるだけ多くの各府県被爆二世組織が共同して行うようにとのよびかけに応じて実施しました。そのため質問項目は統一されています。京都以外の府県の回答も含めた全体の集計、解析は別途行われます。本報告は京都「被爆２世・３世の会」が集約できる範囲に限定してまとめたものです。その意味から本報告を中間報告としています。

■被爆二世のいのち、からだに関わる全体像は、今生存している私たちの姿だけから見ることはできません。親の放射線被ばくの世代を超えた影響によって、正常な誕生さえ許されなかった人たち、健康とはほど遠い状態で生を終えなければならなかった人たちは決して少なくない、と思われるからです。今生きている私たちは Survivors（生き残った人々）ではないでしょうか。原爆さえなければ健やかな人生を営むことができたはずの多くの同世代の人たちのことも、別途明らかにしていかなければならない私たちの課題です。

私たちはそのことも十分心留めていかなければなりません。被爆から７０年、気の遠くなるような時を経てしまいましたが、決して諦めることなく、屈することなく、一歩々々壁を乗り越え、挑んでいきたいと思います。

０．調査期間と方法

① 調査期間

- ２０１５年5月２５日～２０１５年9月３０日

② 以下のみなさんに調査アンケートを配布して回答協力を依頼した。

- 京都「被爆２世・３世の会」の２世会員　４０人
- 京都原水爆被災者懇談会会員を通じて、会員の子どもさんへの依頼　約５００人
- 京都「被爆２世・３世の会」の会員を通じて、２世の友人・知人への依頼

尚、回答者は京都府内在住者に限定していない。

③ アンケート回収は郵送を基本にした。

１．回答者

① 回答者数

- 合計１０６人　女性４７人、男性５６人、未記入３人

② この回答を記入した人

- 被爆二世本人７９人、親族２７人

③ 回答者の居住地

- 京都市　５１人（４８．１%）
- 京都市以外の京都府内市町村　２４人（２２．６%）
- 他府県　３１人（２９．２%）

④ 回答者の年齢

- 平均５４．０８歳
- 年代別構成

  ３０歳代５人、４０～４４歳１１人、４５～４９歳１５人、５０～５４歳２１人、５５～５９歳２４人、６０～６４歳１８人、６５歳以上１２人
- 最高齢６８歳、最年少３３歳

⑤ 親の被爆

- 両親ともに被爆　１７人
- 父親のみ被爆　４３人
- 母親のみ被爆　４６人

２．父親の被爆について

① 被爆地　広島４７人、長崎１０人、未記入３人

② 被爆時年齢

- 平均１７．５歳
- 胎児０人、０～１０歳９人、１１～２０歳２５人、２１～３０歳１６人、３１～４０歳３人、４１歳以上０人

③ 被爆形態

- １号被爆（直爆）２８人、２号被爆（入市）１８人、３号被爆（救護・他）７人、４号被爆（胎内）０人、その他１人、未記入６人
- 被爆状況を具体的に記述された回答

- 呉において被爆。本人は被爆の自覚なし。
- 両親が水田で草刈り中、傍で遊んでいて被爆。
- 黒い雨に打たれた。
- 陸軍兵のため救援活動中、現地にて
- 疎開先で黒い雨を浴びました（湯来町の方と思います）

④　父親が現在も闘病中であり、その具体的な病名を記述された人　１５人

- 高血圧症、肺気腫２人
- 肝機能障害・糖尿病２人
- 心筋梗塞２人
- 左ひざ関節手術、誤嚥性肺炎、感染症・脳梗塞、心不全・腎性貧血、結腸癌
- 若い時からずっと疲れやすく病弱。<u>４０歳頃より歯が一本もなかった。</u>
- 心臓病の手術後の多臓器不全
- 糖尿、高血圧、生活習慣病等

⑤　父親の亡くなられた年齢と具体的な病名を記述された人　３２人

- 脳梗塞　４人
- 大腸癌　２人
- 老衰　４０代から５０代肺癌で闘病
- 肺癌
- 最初に前立腺癌、次々に骨癌、肺癌と転移。１０万人に一人という奇病
- 白血病
- 心筋梗塞　４人
- 脳梗塞で肺炎
- 結核他不明　２人
- 脳溢血
- 肺出血　２人
- 骨髄異形成症候群
- 肺炎　２人
- 肝臓がん
- 膵臓がん
- 日射病
- 間質性肺炎
- 肝臓・心臓・前立腺癌　２人
- 胃がん・肝硬変
- 心不全
- 老衰

３．母親の被爆について

①　被爆地　　広島４９人、長崎１３人、未記入１人

②　被爆時年齢

- 平均１１．３歳

- 胎児２人人、０～１０歳２５人、１１～２０歳２６人、２１～３０歳３人、３１～４０歳２人、４１歳以上０人

③　被爆形態

- １号被爆（直爆）３９人、２号被爆（入市）１１人、３号被爆（救護・他）５人、４号被爆（胎内）５人、未記入３人
- 黒い雨他

④　母親が現在も闘病中であり、具体的な病名を記述された人　１７人

- 膀胱癌（三度手術）２人
- 高血圧２人
- 甲状腺腫２人
- 高血圧・白内障２人
- ぜんそく・膝関節症２人
- 糖尿病３人
- 変形性腰椎湾曲症・貧血、狭心症、黄ハン変性、大腸がん転移・肝臓ガン、高血圧・高コレステロール血症・不眠症、不整脈・狭心症、黄斑変性

⑤　母親の亡くなられた年齢と具体的な病名を記述された人　２０人

- 腎臓がん
- 心筋梗塞　２人
- 心臓
- 肺癌
- リンパ腺の癌
- 脳出血
- 心不全　３人
- 悪性リンパ腫
- 腰、ぜんそく、甲状腺、血圧、虫垂、扁桃腺
- 子宮筋腫で摘出　２人
- 肝臓がん　２人
- 膵臓がん
- 老衰
- 致死性不整脈

４．親から被爆状況についてどのように聞いているか？

①	しばしば話を聞いた	３８人（３５．８％）
②	４～５回話を聞いた	９人（８．５％）
③	１～２回話を聞いた	１４人（１３．２％）
④	ほとんど話を聞いていない	２１人（１９．８％）
⑤	親以外から話を聞いた	５人（４．７％）
⑥	その他	２人（１．９％）
	未記入	１７人

５．親が話の中で強調していた言葉や自分が記憶として留めている原爆のシーン

① 回答した人　４７人

② 具体的な回答内容

- 周りの人が焼けただれていた。
- ほとんど原爆の話はしませんでした。お酒に酔った時、思い出すようにというか、絞り出すようにしか話をしませんでした。
- 原爆が落とされた時、祖母は母を連れて国鉄に乗っていた。（広島から尾道へ向けて）。爆風で電車の窓ガラスが割れて、祖母は母を座席の下に押し込んだ。その後二日経って身内を探して入市被爆した。
- 半焼けの馬が川べりに多く死んでいた。宇品は市のはずれなので大丈夫だと思っていた。

  可部の寺や学校に逃げてきた人が多くいた。街中の片付けが早くされていて驚いた。

  被爆した母の姉は髪の毛が抜けてなくなった。このことについて当人の姉は「ふうが悪くて外へも出られんかった」と自分に語っていた。
- 爆風により祖母が鏡台のガラスが体内に刺さり、体内に残ったままだった。母は家が倒壊したため、腰骨骨折。しかし、大人になるまでそのことに気付かなかった。
- 母と二人、防空壕へ入った。女の子上の子らは外。２人死亡
- 訓練を休んで、洗い場で洗濯をしている時に爆風に吹き飛ばされ気絶する。死体と思われ、戸坂村に運ばれ、数日後にグランドに並んだ死体の山の中で息を吹き返す。
- あんなむごい事は語りたくない。二度と戦争だけはしてはならない。
- 軍隊に所属して九州に移動する途上、原子爆弾投下による鉄道不通のため、山陽線梅田駅と横川駅の間を爆心地近くの広島駅の西方を経由し徒歩で通過した。（６～８日）その間、被爆した住民の救護活動をした。
- 『はだしのゲン』と同じような、逃げる人々の様子。手を前にして、爪で焼けただれた皮膚が引っかかっている状態
- 平成１９年に被爆者手帳交付申請するときと、平成２４年に孫の「祖父のｌｉｆｅ　ｈｉｓｔｏｒｙ」レポート作成時の聞き取りの時に聞いた。軍隊に所属して九州に移動する途上、原子爆弾投下による鉄道不通のため、山陽線梅田駅と横川駅の間を爆心地近くの広島駅の西方を経由し徒歩で通過した。（６～８日）その間、被爆した住民の救護活動をした。
- 私が幼いころは被爆当時の悲惨な状況をよく語ってくれましたが、現在はその前後の事をよく話してくれます。

- 軍隊として駐屯し、その時洗濯中で建物の陰になる場所にいて直接光を浴びなかった。５００名居たうち、助かったのは２人だけと言っていた。その後死体処理など手伝って、しばらく居たとの事
- 語り部になってからの記事を読んでシーンがわかった。泣きながら歩いてくる子供に「泣いたらアカン」と言ったがその子の背中はパカッと切れていた云々。
- やけどを負った人々が水を求めて川にいっぱい入っていた。母の両親も被曝していて、どこにいるかわからず探し回った。友人が後の電車に乗っていて亡くなった。
- 水をくださいと泣き叫ぶ声。
- 灰皿に祖母が落ちていた髪の毛を捨て、その燃える臭いに強く反応して死体が燃える臭いだと言って、しかった。
- 平和希望
- たくさんの人に水を飲ませた。
- 平和ということ
- 白血球が少ない
- 母は１９４６年５月３１日生まれで、広島の最後の胎内被爆者なので、「私は一番若い被爆者。長生きして死ぬまで原爆のおそろしさをうったえ続ける」と言っていた事。
- 父は学徒動員で市内に出た妹を探すため広島市内を歩きまわり、死体をひとつづつ顔をめくって探したが、見つけだせなかったときいている。
- 二度とこのようなことがないように、平和教育をがんばってほしいと娘（教員）へ書いてくれた。
- 原爆投下の瞬間の熱線の熱さ。人の体に蛆がいっぱい湧いていたこと。水槽の中に顔を突っ込んだままのたくさんの死体。
- 弟は爆心地の近くの小学校で被爆し、数日後に亡くなった。宇品港から焼けただれた皮膚の人がたくさん島へ渡った。自分は貨物列車の陰で助かった。
- 臨月で山口に疎開していた母以外、家族全員が被爆。幟町の家で被爆した祖母と叔母から縮景園に逃げ、火の手が迫ってくるので裏の川に飛び込んだことや友人の家で下敷きになっていた従兄を必死で助け出したこと。父が運びこまれた小学校がわかり、線路をはって会いに行ったこと。父は左肩から下がずっとケロイドでウジがわいていたことなど聞いた。１９４５年９月に生まれた姉は翌年、１歳の誕生日前に死亡した。
- 平和と言う事
- 広島市内の悲惨な状況。焼死した数多くの死体。核兵器廃絶。二度と戦争をしない。

- 話をしない
- 家のガラス戸のガラスがすべて飛び散った話。学徒動員で爆心地近くの工場で被爆した姉が、次の日やっと自力で帰ってきたこと。その姉の腕や体にささったガラス片を取り除く治療につきそって行ったこと。母の姉の口からは直接話をきいたことはありませんが（長いこと話すことがつらく口にだすことは無かった）女学校の手記で被爆体験を読みました。文章を書くことについても何十年とかかったそうです。
- 父は家にいて、爆風で家の壁がゆがんだと言っていた。母は家の近くの防空壕で、びっくりして外に出たら大きなきのこ雲を見たと言っていた。
- ほとんど聞かない。詳しく話したがらないので。
- 家の下敷きになり背中に柱が落ちてきていて、傷口から出血がひどかったが、それにも気づかず必死で外に出ると殆どの家がつぶれ、何事が起ったのかと思ったということ。川に浮かんで流れていく死体。
- 祖母（母の母）が原爆ブラブラ病のような症状だったこと。被爆から２７年たって血をタライ一杯に吐いて亡くなったこと。遺骨がボロボロくずれたこと。私が１９４６年５月３１日生まれの広島最後の被爆者なので、核廃絶のために長生きして訴え続けると言っていたこと。
- 市電の中で被爆し、首にやけどをし、ケロイド状のあとが残った。
- 長女の顔にガラス片が突き刺さり、傷口から肉片が垂れ下がっていた。爆風で壁、タンスが吹き飛び、粉じんで何も見えず、何が起こったのか分らなかった。大勢の人と太田川に沿って北方に逃げた（長女を連れて）
- 人の区別がつかない。とにかく地獄。戦争はいいも悪いもなくひどいことになる。
- 親類の人たちの当時の様子。疎開先へ次々に避難してきた時の様子（頭の毛はすでになく丸坊主の伯母等）。何日も市街地を探し巡りやっと会えたがすでに死亡しており、その場で火葬するも遺骨は特定できない。
- 学徒動員で出勤したら空が光って大きな雲がどんどんふくらんだ。
- 「いつもきれいにしていたお母さんが火傷を見て『こんなことになってしまった』と嘆いていた。水を欲しがっていたが、あげると死ぬと聞いていたので、あげなかったのに死んでしまい、あげれば良かったと後悔していた」と祖母から聞いたと言っていました。
- ガラスが背中にささって神社に避難していた時、近隣の男性がシャツを着せてくれてありがったこと。爆心から遠ざかるように逃げたこと。
- 被爆直後、川に避難する途中見た被爆者のむごい姿…死んだ赤ちゃんの名を叫びゆすっている母親、丸焼けで「イタイイタイ」と泣き叫んでいた少年。自身も家の下敷きで背中に倒れてきた柱で大けがをし、出血していたが気づかず、途中で気を失いかけ、母（祖母）が自分の着物の裾を破り、応急に止血してくれたこと。その晩は川原で野宿し、母（祖母）

が拾ってきたトタンを屋根にして黒い雨をしのいだこと。裸同然の母に自分のシャツと靴下を脱いで着せてくれた在郷軍人の方の親切など。

- 人生とは不思議なものだ。
- 全身やけどの被爆者多数。皮膚がただれ、垂れ下がっていた。爆風により家屋崩壊。
- 母が祖母から常に聞かされた話です。上海からの引上げ船が長崎に着いた時はまだ牛や馬がくすぶっていた。終戦まもなくプサンから博多に着き、数日後電車で長崎に着いた。野母崎へ行く道が台風で壊れていたので、大波止という所の、窓も全て割れた旅館で１週間から１０日間滞在して船を待った。９月初日の新学期から姉たちが野母崎の学校へ通えたのは、８月末には野母崎での転入手続きを終えられていあｔから。長崎での現場投下後、まもなくあるいは終戦まもなく大波止に１週間滞在し、８月中に野母崎にわたったらしい。
- おばが姉にあてた手紙の内容で、「死体がゴロゴロ、死体がゴロゴロ」という文章。原爆投下後、２日目？屋根のある所（お寺だったと思います）で食事と、ふとんで寝ることができた。何日かして軍医さんに薬をもらい顔のやけどがなおった。その３点があたため、生きることができた。

６．親の被爆者手帳を見たことがあるか？

① 見たことがある　　７０人（６６．０％）
② 見たことがない　　２８人（２６．４％）
③ 未記入　　８人

７．あたなの健康状況について

① 「健康である」と回答した人　　５６人（５２．８％）

② 「過去に病気で苦しんだ」人、「現在苦しんでいる」人の合計　　４１人（３８．８％）
- その内ガンの発症の経験のある人　　１１人
- 生活習慣病に分類される病気の経験のある人　１２人

③ 「過去に気で苦しんだ」・「現在苦しんでいる」ことを具体的な内容で記述した人　５２人

④ その内容
- 現在／糖尿病　３人
- ４０歳代／大腸ポリープ切除
- 現在／紫外線アレルギー（２０１４年より）、前立腺癌（２０１４年判明）、１０歳まで／小児ぜんそく、３０歳代／花粉アレルギー、６０歳代／ヘルペス
- 現在／高血圧、２０歳代／結核
- 昨年７月、悪性リンパ腫が発覚したが、抗癌治療により癌は消滅。現在は２か月ごとに検査をしている。１０歳まで／脱腸、５０歳代／くも膜下出血・リンパ腫
- 現在／乳癌（悪性）
- 現在／腎臓癌

- 健康そうに見えますが膠原病。冬になると１０本の指の先が割れてとても痛い。灰が固くなりつつありそうなので、定期検査を進められている。
- ３０歳代／胆のうポリープ摘出、６０歳代／白内障
- コントロールができている糖尿病である
- 胆のう、肝臓、膵臓、甲状腺に嚢胞あり。多発性嚢胞？　・リウマチ因子（ｒｆ）定量値が基準範囲を超え高値。年々徐々に上昇中。　・白血球数値が基準範囲を超え低い。　・尿検査値が基準範囲から外れる。腎機能低下？
- 高血圧、腰痛、うつ病（軽度）、５０歳の時に仕事の多忙もあり、一気に出まして、現在も上記三つは通院中。
- ４～５年前に肺癌が見つかり手術。原因の一つにアスベストがあり現在裁判中。それ以外は健康。５０歳代／肺癌
- ３０年近く、降圧剤、そして高脂血症も飲み始めて、かなりになります。年齢的なせいもあるでしょうが、同年代の人々と比べるともう少し体力があればなあと思うこのごろです。３０歳代／子宮ポリープで全摘、４０歳代／高血圧、５０歳代／高脂血症
- １０歳まで／扁桃腺摘出、４０歳代／右胸ぼうえん病・皮膚がん、５０歳代／不整脈
- 甲状腺がんの手術　体調が変わり、疲れやすい。１０歳まで／扁桃腺除去、３０歳代／甲状腺癌片方切除
- 前立腺肥大だったが手術によって解消。２０１２年に４か所に癌が発生（ステージ１未満）。気功治療によって治癒。
- 現在／高血圧・高脂血症・無呼吸症
- 現在／疲れやすい。甲状腺を片方切除
- 現在／糖尿病・高血圧　２人
- 現在／統合失調症
- 現在／うつ病を９年前に発症し、現在も社会不安障害などで、服薬、カウンセリング治療を続けている。
- 現在／糖尿病　緑内障　網膜症
- 予防接種は虚弱体質で完了してないものもあります。
- 現在／心臓肥大
- 現在／ときおり、免疫が低下する。
- １０歳まで／起立性調節障害　片頭痛
- 現在／偏頭痛
- 現在／時々鼻血、腰痛
- 現在／健康だが高血圧で薬を服用している。
- 現在は慢性的な下痢が続くが、基本的には健康。１０歳まで／貧血、肋膜炎、肝臓炎、１０歳代～４０歳代／低色素性貧血、５０歳代／脳ヘルペス・回転性めまい、６０歳代／過敏性腸炎
- 現在／狭心症で投薬中
- ２０歳代／網膜剥離、３０歳代／性尿器の悪性新生物
- ３８歳の時Ａ型肝炎で４か月入院。６２歳の時、右股関節全置換術で人工関節。３週間入院。

- 現在／うつを患っている。
- １０歳まで／喘息、１０歳代／扁桃腺摘出
- ４０歳代／ひざ滑膜切除手術、５０歳代／副鼻腔炎手術・網膜レーザー手術
- 胃腸が弱く、良く貧血で倒れていた。小４の時からアトピーになり、いまだ治らず。サロンパスのような湿布薬はかぶれるから貼れない。姉も妹も同じく…。４０歳代／首ヘルニア、腰ヘルニア
- ４０歳代から甲状腺機能亢進症、緑内障
- 現在／概ね健康だが、花粉症がひどくて喘息のように呼吸困難になる。１０歳まで／不整脈
- 現在／３０歳代から糖尿病、１０歳まで／先天性心室中隔欠損症
- 現在／高血圧、尿酸値が高い。風邪をひきやすい。
- 現在／小脳変性症、１０歳代／肝炎、４０歳代／尿管結石、５０歳代／狭心症、６０歳代／前立腺癌
- 幼少期肝臓病治療に入院。50 歳で乳がんの手術を受ける。
- １０歳まで／斜視の手術
- 現在／手足のしびれ
- １０歳代／扁桃腺炎
- ４０歳代／甲状腺にのう胞、５０歳代／腸ポリープ、６０歳代／緑内障・食道静脈瘤
- 気管支喘息（昭和４０年ごろから３年間）
- ２０歳代／軽度難聴、４０歳代／中度～高度難聴

８．兄弟姉妹の出産状況について

- 略

９．あなたの幼い頃の健康状態について特徴的だったこと

① 具体的な回答を記述した人　４３人

② その内容

- 幼児期、よく鼻血を出していたし、化膿しやすい体質であった。妹も虚弱体質であった。
- 貧血気味だった（目まい）
- 小学校入学以前は小児ぜんそくだった。
- 特にない。兄（長男）は一世である。教師として勤務していたが、学期終わり毎に高熱を出して寝込んでいた。
- よく胃痛がした。小学校の毎月の発育測定で体重減少が続いたので受診を勧められた。
- あまり体が強いほうではありませんでした。
- 中学校の頃までは運動すると湿疹が良く出ていました。貧血気味で何回か失神したことがある。
- 自覚ある範囲では、小学校のころから貧血気味だった

- 扁桃腺がよくはれて熱を出してのどを冷やしてもらって寝ていた
- 鼻血がよく出たり咳を多発しました。
- 貧血気味で鼻血がよく出た事あり
- いつも扁桃腺の熱が出てひきつけを起こしたりしていました。
- 貧血気味で鼻血がよく出た。ぜんそく出たことあり
- 子供の頃は鼻血がよく出ました。現在は、赤血球の数値が低く、貧血気味です。
- ぜんそく、気管支炎で吸入を毎晩し、小学校入学までは、ほとんど幼稚園に入園したが、通園できなかった、よく熱をだしていた
- 鼻血はよく出ていました。今も時々出ます。
- 出産時の体重は２３００ｇでした。
- かぜをひきやすかったときく。ぜんそく。
- 白血球が少ない。
- 疲れやすく、よく片頭痛をおこしていた。
- 胃腸が弱い
- 小さい頃は病気ばかりして、いつもネマキすがたであったが、小学校に、入学してからは健康であった。
- 病弱気味で人より体が細かった。
- よく鼻血がでていた。貧血気味だった。
- 幼いころは乗物酔いがひどくて、酔い止め薬を飲まないと車などに乗れなかった。幼い頃は、暗い中での劇場映画も観ることができなかった。非常に気分が悪くなり、しばしば嘔吐、めまいを起こした。
- 小学３年のとき肋膜、肝臓、貧血等で２学期近く休学。その後も夏は貧血等で体調を崩すことが多く、大学卒業までずっと医者通い。しかし、就職後は職場の健診で「低色素性貧血」とされる以外は過労やストレスでダウンすることはあったが、すこぶる元気。
- 出産時は体重２０００ｇで、冬でしたので保育器に入っていました。
- 小学校で鼻血がよく出ていました。
- アトピー性皮膚炎
- 幼少の頃、よく鼻血が出た。
- 出生頃より病弱貧血で（強）中学生になって貧血が正常になった。小学校４年生の時、一気に学校の２階に上がれることが出来なかった。
- 出生仮死状態。中学生まで強い喘息だった。

- 特に困るようなことはなかったようです。但し、結婚後、長男を急性骨髄性白血病で亡くしました。２人目も流産しています。
- 先天性心室中隔欠損症で、小中学校時代は病弱だった。現在は心音は以前の通り異常だが、病気はしなくなった。
- 小学校高学年時、突然鼻血よく出た。学校の朝礼の時、貧血状態で気分が悪くなることが多かった。ジンマシンが出ることがあった。
- 戦後食糧難にて栄養失調
- 風邪をひきやすく、すぐ中耳炎になるので、幼稚園は半分くらいしか行けなかった覚えがあります。
- たまに鼻血がでていた。
- 扁桃腺をよくはらして発熱して低学年まではよく休んだ。
- 小学校の頃はよく鼻血を出しており、朝礼時に吐いていた時もある。中学校以降、半規管からくるものなのか、ふわふわした感覚があり、現在まで続いている。（鼻炎でもあるので、耳管が通っていない。通りづらい可能性あり）。喘息であり、慢性鼻炎である。
- よく鼻血が出ていた。よく扁桃腺だった。喘息だった。
- 喘息の持病があります。
- ４歳頃、鼻血が２時間出続けた。白いバスタオルが血で赤くなったらしい。そのつどつど、よく鼻血が止まらず、２～３日出たり、止まったりを繰り返すことがある。今はコントロールして疲れすぎないようにしている。②血小板減少症で、父の被爆と何か関係あるのか、ないのか？母（被爆者ではありません）も血小板減少症で、そちらの方なのかわかりません。

１０．　今後の被爆二世運動についての要望

① 具体的な回答を記述した人　４３人

② その内容

- 現在父も私も生きています。原爆投下によって多くの方々が苦しみ亡くなられました。世界に核兵器があるかぎり、訴えていき次の世代へ繋げていけるように協力して行きたいと思います。
- 実態調査、健康調査は、本来行政が責任を持って取り組むべきだと思います。
- 戦争で亡くなった人はたくさんいます。亡くなった人の残された家族に健康上の影響はありませんが、被爆者の子どもには健康上の不安があります。広島・長崎で生まれた者は色々な面で損だなと思っています。被爆者の子どもは健康でも孫やひ孫に影響があると子どものころ噂していました。被爆の影響は継続しての調査が大事だと思います。

- 「被爆二世については遺伝的な影響はない」との意見が定説となっていると聞くが、継続調査が必要だと思う。
- アンケートが遅れて申し訳なく思っています。母に幼い頃から被爆の話を聞き高校教諭として平和教育に取り組み、現在も平和と民主主義のために闘う人生を送っています。優しく努力家の母を尊敬していますし、こんな生き方を選んで自分の人生に悔いはありません。
- 被爆二世の状態もあるけど、ただ今、現在の放射線被ばくの影響もあるので、特定は難しいのでは？私自身も東北震災後、仙台へ行ってきたが、その後あるとき突然２時間程度多量の鼻血が止まらず便器から離れる事が出来ない事があったが、原因は不明です。
- かなり以前、京都府からの被爆二世の検診を２回ほど受けたことはありましたが、その後はないようです。今現在、高血圧等、生活習慣病から来るものなのか被爆二世だからなのかあいまいな感じです。
- 母が自ら被爆者になったわけではなく、私たち兄弟も母をせめてはいない。私が幼児の頃、母は身体が弱く貧血や異常出血などで苦しんでいた。そのため、両方の祖父母に度々預けられとても淋しく、弟や妹がうらやましかった。結婚後は嫁ぎ先の両親や親族に嫌味を言われ続け、体を壊したのをきっかけに当時一歳だった子どもを置いて離婚。母も悩み自分を責めていた。被爆者は健康面だけでなく、心も深く傷ついている。それが二世・三世にもつながることが確としてある。福島の被爆者も。この調査は大切だと思う。母を通して活動には協力したいと思っています。よろしくお願いします。
- 戦争を知らない子供たちがふえている今、あらたな戦争にならないよう皆でとりくむ必要をせつに思います。
- ごくろうさまです。核兵器廃絶、被爆者援護の実現へがんばりましょう。
- 両親共にガンで苦しんでいました。現在はまあまあ健康ですが、将来の不安があります。健康対策を求めます
- 親が悪いわけではなく、二世だからといって特にはないが配偶者やその親族は不安を持っているようだ。いまさらどうしようもないので、ほっといてほしいと思う。子供の病気（骨髄炎）には、敏感になり、将来において不安は感じる。親が強く動揺する。国が二世、三世まで面倒見るとはとても思えない。福島はどうだ。しかし黙っているのはよくない。核被害者の将来において親をとおしてしか出来ないが運動してほしい。
- 私は、今までに被爆二世であることを、あまり意識せずに生活していました。そのため、はじめて二世三世の会の存在を知りました（京都にあること）自分の中だけに被爆二世をかかえてきました。今、いろんな人の話を聞と、話をさせてもらいたいと思います。今、自分の外に出したいと思います。
- 被爆３世の子が鼻血が出て心配です。このような調査もしてほしいです。
- このような調査活動が第一歩と思います。よろしくお願いします。

- 世界の様々な被爆者（ウラン鉱夫、原発事故、医療関係者）との連携。核兵器廃絶と原子力発電の廃止運動を推進する。
- 国による定期的な健康調査と二世・三世のガン検診等の無料化を求めること。
- 一世も二世も高齢化が進んでいるので、対策を立てるのなら早くしないと意味が無くなる。
- 常に健康に不安を感じて生活している。何に起因するのかよく分らないが、病弱は変わらず、医療費の支援をもっと拡大して欲しい。被爆二世への影響について、実証的研究に力を注いでください。質問表について：質問の意味が明確でない項目が多くあります。もう少し的確な説明文として、折角のアンケートだからできるだけ内容のあるものにしてほしい。
- 被爆２世というよりも被爆者自身がいなくなる前にできるだけ情報を聞くべきだと思う。広島にも２世・３世の会ってあるんですか？福島の今後も調べてほしい。
- 直爆を受けた伯母はすでに９０歳ですが、何カ所かのガンを患いながらも生かしてもらっています。人の生命力の強さも感じております。
- 特にガン検診や甲状腺検診など各都道府県で無料で定期的に行ってほしい。全国の二世（三世）の会（統一組織）を発足させたい。被爆者との連帯と「語り継ぎ部」の育成⇒語り部派遣など。
- 要望ではありません。アンケートに書き切れなかったことです。胎内にいた母は７人兄弟の末っ子で、１８歳上の姉を頭に３人の姉と３人の兄がいた。３人の姉（私の伯母）のうち一人はすでに死亡、一人はリンパを全切除するも今も生存。もう一人は若い時から腎臓を病み、長期間の透析の末死亡。３人の兄（私の伯父）のうち、被爆手帳を申請して却下された長兄（被爆当時１４歳）の娘は２４歳で膠原病で死亡、その父にあたる伯父も若くして死亡。あと２人は今も生存。原爆が影響したであろう事実を、戦争被害の一部と思っていました。守田さんが声をかけてくださらなければ、わたしも被爆２世だと、このように文章にできなかったかもしれません。ありがとうございました。
- 在外被爆者支援や原発の被曝労働者問題、世界のヒバクシャの連帯活動など、具体的な反ヒバク運動が展開できればうれしいです。
- 強力な反戦、反原発、反核運動が必要です。若い世代がシールズの運動を行っていることに期待もしています。
- ＤＮＡや健康調査をやっていく必要があると思います。二世・三世どうし話しを出来る場所が必要だと思います。その話の中で要望などが出てくるように思います。
- 被爆二世の運動があるとは今まで知らなかった。神奈川、関東周辺にも会があれば教えて頂きたいです。

以上

２０１５年　被爆二世健康実態調査

記入者　　被爆二世　　親族

生年月日　　年　　月　　日（　　）才

性別　　女　　男

現在居住されている住所　（　　）都・道・府・県（　　）市・町・村

（1）親の被爆状況についてお尋ねします。

①～③であてはまるものに○をつけ、被爆状況についてお答えください。

①　両親とも被爆　　②　父親が被爆　　③　母親が被爆

親の被爆状況

（①か②に○をつけた方のみお答えください。）

●父親の被爆状況　　被爆地　広島・長崎　　被爆していない

父親の１９４５（昭和２０年）時の年齢（　　歳）

・１号被爆者（直爆）

距離が分かる場合は距離を○で囲み、分からない場合は被爆した地名をご記入ください。

（１Km以内　　１Km～２Km　２Km以遠）　　被爆地点（　　）

・２号被爆者（入市被爆）

入市した日と場所をお書きください。

（　　）日、どこを尋ねたか場所をお書きください。（　　）

・３号被爆者（救護被爆）

（救護活動をされた場所　　）　（何日間　　）

・４号被爆者（胎内被爆）

・黒い雨・その他　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＊父親が現在闘病中あるいは亡くなられている場合、年齢と病名を教えてください。

闘病中（現在罹患しておられる病名で主要なものを１つか２つご記入ください。

病名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

病名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

亡くなられている場合、亡くなられた年齢と病名をご記入ください。

年齢　（　　歳）　　病名　（　　）

（②か③に○を付けた方のみお答えください。）

●母親の被爆状況　　被爆地　広島・長崎　　被爆していない

母親の１９４５（昭和２０年）時の年齢（　　歳）

・１号被爆者（直爆）

距離が分かる場合は距離を○で囲み、分からない場合は被爆した地名をご記入ください。

（ １Km以内　　１Km～２Km　２Km以遠 ）

（被爆地点：　　）

・２号被爆者（入市被爆）

入市した日と場所をお書きください。

（　　）日、どこを尋ねたか場所をお書きください。（　　）

・３号被爆者（救護被爆）

（救護活動をされた場所　　）　（何日間　　）

・４号被爆者（胎内被爆）

・黒い雨・その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＊母親が現在闘病中あるいは亡くなられている場合、年齢と病名を教えてください。

闘病中（現在罹患しておられる病名で主要なものを１つか２つご記入ください。

病名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

病名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

亡くなられている場合、亡くなられた年齢と病名をご記入ください。

年齢　（　　歳 ）

病名　（　　）

（2）親から被爆状況についてどのように話しを聞いたかお伺いします。

あてはまるものに○をつけてください。

（２の１）

①被爆状況について親からしばしば話を聞いた。②被爆状況について親から４～５回話を聞いた。

③被爆状況について親から１～２回話を聞いた。④被爆状況についてほとんど話を聞いていない。

⑤被爆状況について親以外から話を聞いた。　⑥その他（　　）

話をしてくれる（た）時、親が強調していた言葉や自分が記憶として留めている原爆のシーンがあれば記入して下さい

（2の2）

親の被爆手帳を見たことがありますか。

①見たことがある。　　②見たことがない。

(3)あなたの健康状況についてお尋ねします。

①現在の健康状況であてはまるものに○をつけてください。

ⓐ 健康　　ⓑ病気に苦しんだことがあるが現在は健康　　ⓒ病弱傾向

ⓓ 現在、病気に苦しんでいる

②ⓑ、ⓒ、ⓓと答えた方に**現在の健康状況**を具体的に（病名など）下記のかっこの中にご記入ください。

③これまでの病気、手術または障害についてお尋ねします。どのような病名か下記のかっこの中にご記入ください。小さい時からの心臓弁膜症の方、多指症手術の方は必ずご記入下さい。

病名、手術または障害	10才まで	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)

(4)あなたを含め、兄弟・姉妹の健康状態・出産状況についてお尋ねします。(1945年以前も含む)

(健康状態) 可能な限りでよいのでお答えください。あてはまるものを○で囲み、年齢・病名をご記入ください。

1番目　男　女　生れた年(昭和　　年)・健康　・まあまあ健康・死亡（＿＿＿歳時、病名＿＿＿＿＿＿＿＿）

2番目　男　女　生れた年(昭和　　年)・健康　・まあまあ健康・死亡（＿＿＿歳時、病名＿＿＿＿＿＿＿＿）

3番目　男　女　生れた年(昭和　　年)・健康　・まあまあ健康・死亡（＿＿＿歳時、病名＿＿＿＿＿＿＿＿）

4番目　男　女　生れた年(昭和　　年)・健康　・まあまあ健康・死亡（＿＿＿歳時、病名＿＿＿＿＿＿＿＿）

5番目　男　女　生れた年(昭和　　年)・健康　・まあまあ健康・死亡（＿＿＿歳時、病名＿＿＿＿＿＿＿＿）

（出産状態）可能な限りでよいのでお答えください。あてはまるものがありましたら○で囲んでください。

1番目の兄弟・姉妹　・死産　・早産　・仮死状態

2番目の兄弟・姉妹　・死産　・早産　・仮死状態

3番目の兄弟・姉妹　・死産　・早産　・仮死状態

4番目の兄弟・姉妹　・死産　・早産　・仮死状態

5番目の兄弟・姉妹　・死産　・早産　・仮死状態

(5)その他、あなたの幼い頃の健康状態について特徴的だったことがありましたらご記入下さい。

（例えばよく鼻血が出ていた、貧血気味だった等々）

◎被爆二世健康実態調査へのご協力有難うございました。最後に今後の被爆二世運動についてのご要望がございましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。